

薬の科学実習Ⅱ(Ⅱ-2)

Practice in Pharmaceutical Science Ⅱ

生命：C4-05201MS

基礎科目 2年／前・後期 2単位 必修科目

科目責任者 馬場 正樹(臨床漢方研究室)

■教育目的

生薬および天然物化学のそれぞれの基本的な実験を通じて、日本薬局方に記載してある内容が確認でき、利用できるようにする。また、自然が生み出す薬としての生薬、漢方薬、天然物に関する知識と技術を習得する。【卒業認定・学位授与の方針：SD-①、SD-⑤】

■学習到達目標

1. 生薬、漢方薬、天然物化学に関する基本的な知識と技能を習得する。(知識、技能、態度)
2. 日本薬局方収載の一般試験法や確認試験などを理解する。(知識、技能)

■準備学習（予習・復習）

予習：シラバスや実習書にそって事前に実習内容に目を通しておく。(20分程度)

復習：実験の結果や考察についてディスカッションを通して理解できているか確認すると共に、各自知識の定着に努める。(30分以上)

■授業形態

ディスカッション・ディベート、グループワーク、実習・フィールドワーク、講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
1	実習全体の説明、生薬の確認試験・純度試験	全体の概要説明、フェノール類含有生薬、タンニン含有生薬、フラボノイド含有生薬の特性	
2	生薬の確認試験・純度試験	キノン含有生薬、テルペノイド、サポニン含有生薬の特性	
3	生薬の確認試験・純度試験、生薬成分の転溶精製操作 天然物の抽出	アルカロイド含有生薬の特性、アルカロイド含有生薬から成分の分離・精製、天然物から化合物の抽出	
4	天然化合物の加水分解	天然化合物の加水分解と確認	
5	天然物の分離・精製	天然物の分離・精製	
6	生薬標本の鑑定試験、実習試験(筆記試験) 生薬の未知検試験	品質評価の一環としての生薬の判別、全体を通しての理解度の確認	

■授業分担者

高取(木下)薫、馬場 正樹、佐々木 寛朗、島根 涼

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

実習試験(40%)、レポート等(40%)、標本鑑定(20%)により総合評価する。

実習講義、実習内容、及び実習試験に関する質問は随時受け付け、解説をする。

■教科書

実習書を配布する

■参考書

『第18改正日本薬局方』および生薬学、天然物化学の教科書

■その他

薬の科学実習Ⅱは、Ⅱ-1 有機化学系とⅡ-2 生薬・天然物化学系との合計単位が2単位となる。
(それぞれ別々ではなく両方の実習での総合的な評価となる)